

みなさまの寄附金を活用して 大阪を元気にする9事業を支援します！

～令和7年度 大阪市市民活動推進助成事業～

区政推進基金(市民活動支援型)への寄附金を活用して、令和7年度は9つの事業に対して助成を行いました。

事業を実施している団体より、事業報告が寄せられましたのでご紹介いたします。

＜令和6年度(令和6年4月1日～令和7年3月31日)の寄附について＞

寄附金額 : 22,917,992円

★寄附者の皆さま★

【クリック募金協賛企業】(令和7年10月29日現在)※50音順
愛眼株式会社、アスト株式会社、大阪シティ信用金庫、大阪信用金庫、
株式会社クーバル、クジラ株式会社、株式会社ココロ、株式会社五大、
センコー株式会社、株式会社日伝、株式会社ハヤシコーポレーション、
株式会社一二三工業所、株式会社フォーシックス、株式会社宮田運輸

「クリック募金」とは、事業の趣旨にご賛同いただいた協賛企業等のバナーをクリックすることで、協賛企業等からクリック数に応じた金額を大阪市にご寄附いただき、大阪市市民活動推進助成事業へ活用するシステムです。

【大阪WAONによるご寄附いただいた企業】

イオンリテール株式会社、株式会社光洋

「大阪WAON」とは、イオングループの企業が発行する、地域貢献型のご当地WAON(電子マネー)カードの大阪市版です。

このカードを利用いただくことで、その利用金額の一部を大阪市に寄附いただき、大阪市市民活動推進助成事業へ活用するしくみです。

【その他令和6年度にご寄附いただいた団体・企業等】

20者

地域住民の多世代交流を通して地域生活支援事業

特定非営利活動法人ここから100

事業HP等のURL：<https://cocokara100.com/>



【事業の目的】

防災イベントやこども食堂で多世代交流を積極的に行い、防災への意識の向上や孤独・孤立をなくす。高齢者・おひとり様・ひとり親・生活困窮者・障がい者・不登校等のこどもたちを対象に頻度・内容を向上させることで更に多世代交流の機会を増やす。自社で講座を開き民間の育成に力を入れる。【つながりサポーター】の活動を開始し、今までサポートできなかった人について民間と協力し、高齢者や障がい者等を中心にサポートを行う。

【活動内容】こども食堂・多世代交流・宿題カフェ・認知症カフェ・フレイル予防・つながりサポーター養成講座・ぼうさいカフェ・ハロウィンぼうさい2025キャンドルナイト・新大阪・三国アートフェスを12月6日～14日まで開催します。

【今年度の目標】みまもりあいアプリの活用の拡大をします。 認知症徘徊・こどもの行方不明捜索・外国籍の親子のコミュニケーションツールの活用をします。
つながりサポーター養成講座のマニュアル作成をして孤独・孤立対策できるスキルをつけます。

「ひきこもり等に関する無料相談窓口」を各区に開設および準備するための事業

特定非営利活動法人青少年自立支援施設淡路プラッツ

事業HP等のURL：<https://www.awajiplatz.com/>



●活動概要

ひきこもりのご家族（特に保護者）を主な対象として、大阪市の各区ごとに「無料相談窓口」を設け、長期化および高齢化するひきこもりも含む相談と支援を行います。月に1回（1時間×2枠）の開設を目標とします。

●事業の目的

相談内容から適切な「見立て」を行い、各区および市内の身近で適切な社会資源（支援機関）に繋ぐことを目的とします。これにより支援のミスマッチや中断を避け、切れ目のない支援を提供することで、家族と本人の孤立を防ぎ未来を創ることを目指します。

また、支援がまだ整っていない区のひきこもり支援を担うことで、各区の支援の差異や取りこぼしを無くし、気軽に相談できる体制を整備することで大きな社会課題および地域課題であるひきこもり問題の解決に寄与したいと考えています。

●今年度の計画

前半

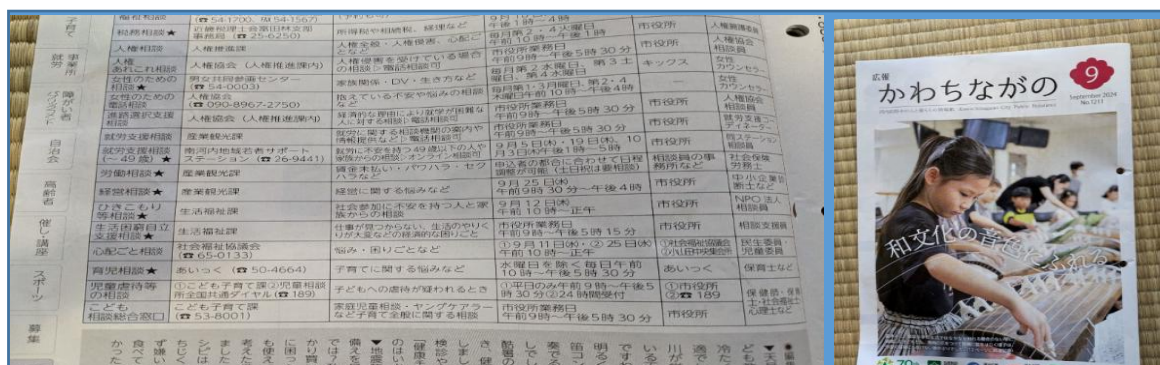
- ・各区の窓口の現状把握、準備、各種調整（担当課・場所・頻度等）、広報
- ・各区の社会資源の把握および掘り起し（協力体制の構築）

後半

- ・区のHPやSNS・広報誌、当団体作成の広報チラシを通じて、市民に周知
- ・無料相談窓口の設置（月1回、2枠程度からが望ましいですが、初年度は隔月か3～4か月に1回が妥当と考えています）。

●目指す状態

その場で解決することだけを目指すのではなく、一旦各区の無料相談窓口にてひきこもり相談を受けることが出来る機会と仕組みを設けます。そこから、必要であれば市のひきこもり地域支援センターでの専門相談や、地域の支援機関および社会資源に繋いでいきます。



中学校内サードプレイス事業

晴明丘地域活動協議会

事業HP等のURL : [Instagram.com/seimei.chikatsu](https://www.instagram.com/seimei.chikatsu)



【活動概要・事業の目的】



「校内サードプレイス事業」として令和7年4月より、毎週火曜日の放課後に、中学校内の図書館で開所しています。

不登校の症状が出る前、そうならないようにするための予防支援です。そしてこの場は「不登校や引きこもりの予防」だけを目的にいません。今しんどい人も、そうでない人も、自分らしさを回復し、次の一歩へ進む力を蓄えられるような時間とつながりを提供しています。

【令和7年度の活動紹介】

ゲームで遊ぶ、絵を描く、本を見る、宿題や勉強をする、ただお喋りをする、何もしない、みんな思い思いに、それぞれの居場所になっています。

夏休みの期間中は、時間を午前中に変更して開所しました。今年ここを卒業した高校生も遊びに来てくれました。

【今年度の計画等】

この場所を必要としている子ども、保護者の方に、不登校の予防型の支援である「校内中学生サードプレイス」を、行政、学校、地域の協力を得て、丁寧に伝えて行き定着させる。

カラーサポートプログラム

団体名： 特定非営利活動法人 TrueColors

事業HP等のURL： <https://www.truecolors.jp/>



【活動概要・事業の目的】

色の見え方が人それぞれ異なるという事実を社会に広く伝え、
色覚の違いによる不便や危険性を減らすことを目的として活動しています。
「知ることは寛容と智慧を生む」という理念のもと、
色覚少数派の方と多数派の方が互いの見え方を体験・共有できる
「カラーサポートプログラム」を展開しています。

【今年度の計画】

2025 年度は、大阪で開催されるアートイベント「UNKNOWN ASIA 2025」への出展を
予定しています。
会場では、簡易型色覚補助レンズを無償貸与し、
来場者が色覚多様性を体験できる展示やレクチャーを実施します。
また、より多くの方に色覚特性への理解を促すため、
新たな情報ツール（パンフレット・ポスター等）の制作も進めています。

【事業の課題】

出展費用や運営体制の整備において、資金面の調整が課題となっています。
また、体験型展示の効果を客観的に測定するための
アンケートや分析手法の導入が今後の課題です。

【令和7年度の活動紹介（予定）】

12 月開催の「UNKNOWN ASIA 2025」での出展を通じて、
来場者 150 名への体験提供と、メディア露出 1 件以上を目指します。
会場では、色覚補助レンズの体験だけでなく、色の見え方の違いをテーマとしたパネル展示を
実施し、“誰にとっても見やすく、わかりやすい社会”づくりを推進します。



「UNKNOWN ASIA 2023 出展ブースの様

大阪ミナミの繁華街に集う若者に安全な居場所と包括的支援を届ける事業

認定NPO法人D×P

<https://www.dreampossibility.com/whatwedo/project/youthcenter/>



【活動概要・事業の目的】



認定 NPO 法人 D×P は大阪ミナミの繁華街にユースセンターを設置し、繁華街に集まる若者が安心して過ごせる場所を提供しています。

近年、道頓堀のグリコ看板下（通称「グリ下」）には、さまざまな背景から若者たちが集まっています。こうした若者が被害などのリスクにさらされることを防ぐため、信頼できる大人とつながり、安心して過ごせる場所をつくることを目的としています。

ユースセンターでは、手づくりの食事提供、個別相談、医療機関や行政窓口への同行支援などを通じて、若者が次の一步を踏み出せるよう伴走しています。

【今年度の計画】

今年度は、週 2 回のペースでユースセンターを開所し、年間のべ 4,000 人の若者が利用できる環境づくりを目指しています。個別相談・同行支援を年間 320 件以上実施予定のほか、3,500 食の食事を提供します。さらに、医療機関や地域の NPO・行政との連携を強化し、支援のネットワークを広げていきます。

【事業の課題】

今も新たにユースセンターを利用する若者が口コミを通して増えています。また、支援を求める若者も増える一方で、持続可能な活動体制の構築が必要です。今後はさらなる支援体制の強化を図り、より多くの若者に居場所とサポートを届けられるよう努めてまいります。

【活動状況】

令和 5 年 6 月にユースセンターを立ち上げて以来、のべ 1 万人を超える若者が利用しました。若者が適切なサポートにつながる事例も増えています。

困難を抱える高校生を対象としたプログラミング学習・キャリア支援事業

団体名： 認定 NPO 法人 CLACK

事業HP等のURL：<https://clack.ne.jp/>



【活動概要】

生活困窮やひとり親、ヤングケアラー、不登校といった様々な困難を抱える高校生を対象に、完全無料のプログラミング学習支援と、お金・生活・進学について学ぶキャリア支援を提供しています。

【事業の目的】

日本の子どものうち9人に1人が相対的貧困にあるという調査報告があり、家庭環境によって様々な知識、経験、学習機会等に格差が生まれています。また、食事、学習、居場所支援などの小中学生への支援は拡大している一方で、義務教育課程でない高校生は将来を見据える重要な時期を迎えるにも関わらず、これらの支援から漏れてしまうという現状があります。当団体では、困難を抱える高校生を対象に、就労につながりやすいIT スキルを身に着けると同時に、自己肯定感、問題解決能力、情報収集能力といった、社会で暮らす基盤になる力を育むことを目的としています。本事業を通じて、プログラミングスキルの獲得、キャリア教育の無料提供による子どもの経済的・精神的自立と、貧困の連鎖を解消することを目指します。

【今年度の計画】

- ・実施場所：大阪市内
- ・対象：生活困窮、ひとり親、不登校、いじめを受けた経験、外国ルーツ、発達障害といった経済的理由や様々な環境要因で困難を抱える高校生
- ・活動内容：プログラミング学習およびキャリア支援を行う教室「Tech Runway+」を実施。教室は月2回（曜日不定）、（2025年4月-2026年3月）で実施を行う。年3回（7月、11月、3月）に最終成果物の発表会を実施し、4カ月でWebサイト、ゲームアプリ等の何らかの制作物完成を目指す。



「グローバルユース防災サミット 2025 in 大阪・関西万博」の開催 及び大阪市を拠点とするユースによる防災活動

グローバルユース防災サミット実行委員会

事業HP等のURL：<https://youthbosai2025.net>



【活動概要・事業の目的、今年度の計画等】



グローバルユース防災サミット2025 in 大阪・関西万博 2025年5月17日(土) TEAM EXPO パビリオン

▶「グローバルユース防災サミット 2025 in 大阪・関西万博」

2025年5月17日(土) 10:00~20:00 大阪・関西万博 フューチャーライフビレッジ
TEAM EXPO パビリオンにて開催。活動者 97 名(ユースメンバー67 名、海外からの招聘
者 10 名(トルコ 2 名、オーストラリア 2 名、台湾 6 名)、大学生・院生のサポートメンバ
ー(運営、通訳) 10 名、教員 8 名、事務局 2 名)、来場者 約 720 名(展示エリア約
250 名、ステージ約 120 名、対話型学習 67 カ国 163 組、約 350 名)

- (1) 対話型展示 大阪から海外まで自分たちが取り組む防災活動について資料や映像を用い
てプレゼンテーションを行うと共に、来場者との活発な意見交換を行いました。
- (2) ステージ 万博の理念である「いのち」の維持・発展に「防災」ができる貢献について全
年代のメンバーが登壇し、日本語、英語、手話、映像を交えて発信しました。映像では国内の
ユース防災団体の活動の様子も紹介し、ユースによる防災活動の広がりをアピールしました。
- (3) 対話型学習 各国パビリオンを訪問し、文化の多様性に触れると共に、万博の理念である
「いのち」の視点から各国の災害や防災に関する情報収集や対話を行いました。

▶万博後の活動

全てのパビリオンを訪問し、防災に関する声を集めたい。夏休みや休日を捉え、精力的に会
場での活動を重ねました。現在、120 カ国・地域、293 組、640 名の方から様々な意見を
いただき、未来への想いや願いを託されています。

私たちの活動において、万博は大きな意味を持つものでした。大阪で万博が開催されたから
こそこんなにも多くの世界の人たちと出会い、対話を重ねることができました。その国の文化
の素晴らしさを知るだけでなく言葉を交わすことで、その人の考えや思いを知ることができ、
災害から全ての人の命が守られる社会は国が違って共通する願いだということを実感しま
した。私たちは、サミットの活動を通じて世界の人々から託された思いを万博のレガシーとし
て受け継ぎました。防災の大切さを大阪から世界へ発信する「防災世界地図」にまとめ、市民
の皆さんにもご覧いただきたと考えています。地図は完成に向けて鋭意制作中です。

インクルーシブな居場所支援

NPO法人サードプレイス

事業HP等のURL：<https://thirdplace-npo.com/>



本当の意味の“インクルーシブ”を推進するため、障害がある子もない子も、そして、その保護者達も巻き込んだ、ソーシャルな居場所支援。

配慮が必要な子供とそうでない子供が一緒に空間にいて、一緒に遊ぶことで、障害などの理解が進み、配慮が必要な子供の居場所にもなります。

また、そこに、親（特に母親）の居場所を兼ねることで、親の理解も進み、学校や放課後の子供のコミュニティだけではなく、家庭内でのインクルーシブ教育も推進できます。

また、親の居場所は、育児に関する情報交換を行い、育児軽減のための支援にもつながります（特に配慮が必要な子供をもつ親の育児負担の軽減を目指します）。



【今年度の計画】

デイをベースに、地域の学童との連携により、さらなるインクルーシブな場、交流の場を目指します。また、デイの運営次第になりますが、独自で学童の運営も進める（←現状、学童の運営は厳しそうですが、デイに付随して相談支援事業、また二店舗目のデイを検討しております）

【事業の課題】

5月より運営するデイで居場所をスタートさせましたが、周知をしているものの、人の集まりがあまり良くありません。よって、10月22日より、再び、昨年度開所していた校下センターに戻し、再スタートをきりました。また、学童との連携ですが、中々現状厳しく、運営するデイに来ているお子さんを、居場所支援の場所にお連れし、インクルーシブ交流を進める予定です。

一番重要な運営においての寄付に関してですが、現状、寄付を周知する時間が取れず、ここが一番の課題であると感じており、意識的に営業の時間を取るよう心がけております。

【令和6年度の活動紹介】

2024年度に居場所がない中大江地域でスタートを切り、居場所として、地域に知られる存在となりました。

引きこもりからの解放！！精神障害者のための回復コンサート

特定非営利活動法人ジェイズ・マス・クワイア

事業HP等のURL：<https://www.facebook.com/profile.php?id=61550295761666>



【活動概要・事業の目的、今年度の計画等】



活動概要：毎月1回の定期音楽交流会を開催し、障害者と健常者のバリアフリーな交流を目指します。また音楽や親子整体、ダンスなどを取り入れた楽しい交流会にして行くことにより、障害者の方が出て来やすい居場所作りを目指すことで、地域の活性化を図って行きます。

事業の目的：音楽を通じた地域の人々の豊かな心を育む文化、芸術活動により、精神障害者の引きこもりからの解放と心の回復を図ること。

また地域のボランティア団体など一般の方々参加により、普段はあまり触れ合う機会がない人たちとの交流により、引きこもりの解消を図ることが目的です。

今年度の計画：2025年4月より毎月、定期音楽交流会を開催し、2025年12月6日（土）大阪市立平野区民ホールにて、大阪市内在住の当法人メンバー障害者、またその家族を含む一般参加者と共に「引きこもりからの解放！精神障害者のための回復コンサート」を開催します（タイトル「家族の絆クリスマスコンサート」）

事業の課題：精神障害者は、他者（特に健常者）に対してコミュニケーションを取ることが難しいケースがあり、交流会の開催においても、慣れていない人への警戒心などが突如現れることがあります。しかし時間と共にそれらの問題は解決されていきます。そのタイミングを見て状況判断をし、障害者、また参加される一般の方々ともしっかりとコミュニケーションをとりながら、焦らず徐々に交流の幅を広げて行ってもらうことを課題とし、より良い交流会とコンサート開催～引きこもり解消の結果に繋げていきたいと思ひます。